

日高港塩屋地区  
多目的国際ターミナル整備事業

平成21年2月3日

近畿地方整備局

# 目 次

1. 日高港の概要	.....	1
2. 事業の目的	.....	3
3. 事業の経緯及び進捗	.....	4
4. 社会経済情勢の変化	.....	5
5. 費用便益費の算定	.....	11
6. 今後の事業進捗の見込み	.....	18
7. コスト削減や代替案立案等の可能性	.....	18
8. 対応方針	.....	19

# 1. 日高港の概要

## 1) 日高港の概要

日高港は、和歌山県のほぼ中央に位置し、製材業が重要な地域産業である。その原材料となる木材については、大半を外材に頼っており、昔からの港湾施設は水深が3.5m(西川地区)しかなく、県外から小型船(199GT)による海上二次輸送を余儀なくされている状況である。また、施設は老朽化しており、背後地域も狭隘で、荷役機能や環境面での問題が生じている。

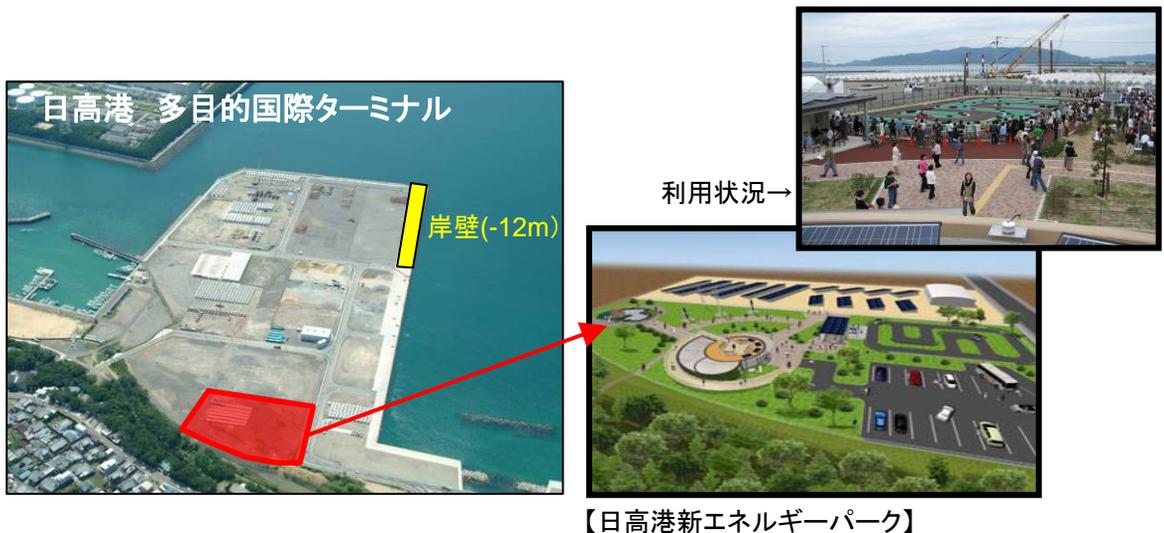
そのため、物流拠点機能を強化するために、新たな港湾施設整備が進められ、最大3万トン級の大型船舶に対応できる岸壁を有した多目的国際ターミナルの暫定供用が平成16年4月に開始されたところである。

また、日高港は避難港全国配置計画で避難泊地の確保が定められており、航行船舶の安全性も求められている。

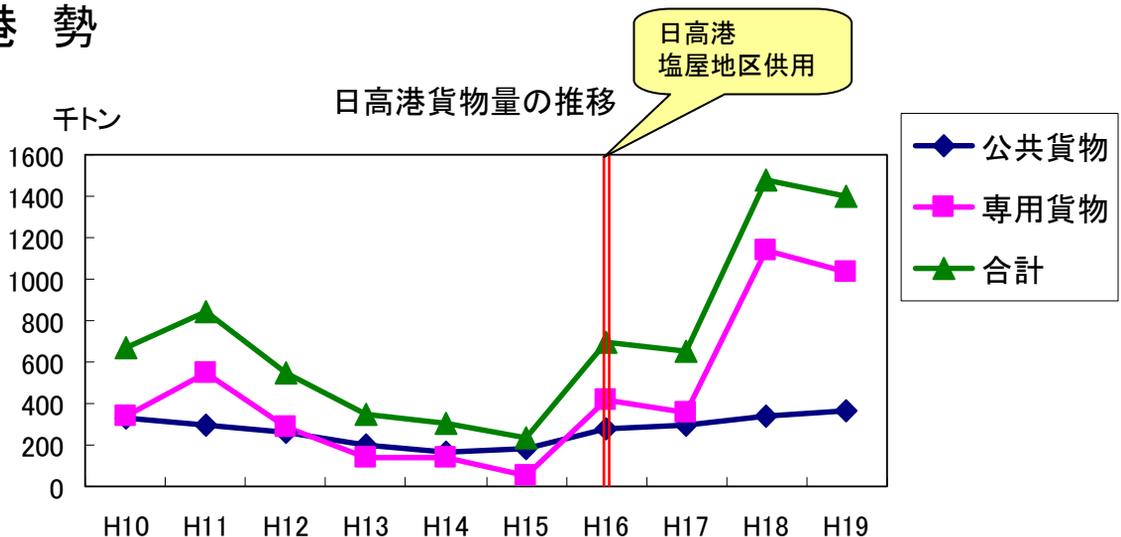


## 2) 経緯

- 昭和25年 : 港灣法に基づき地方港灣の指定
- 昭和58年 : 港灣法に基づき重要港灣の指定・港灣計画の策定
- 昭和60年 : 関西電力御坊火力発電所の運転開始
- 平成 4年 : 港灣計画(一部変更)
- 平成 9年 : 港灣計画の改訂
- 平成16年 : 日高港塩屋地区供用  
多目的国際ターミナル暫定供用(水深10m)
- 平成19年 : 新エネルギーパークオープン
- 平成20年 : 植物防疫港に指定



## 3) 港勢





# 3. 事業の経緯及び進捗

## 1) 経緯

- 昭和60年 : 防波堤(西)に整備着手
- 平成 4年 : 港湾計画(一部変更)で岸壁(-12m)を位置付け
- 平成 5年 : 岸壁(-12m)に整備着手
- 平成16年 : 多目的国際ターミナル暫定供用(水深10m)

## 2) 再評価に至る経緯

平成15年度の再評価後、5年継続事業として今回再評価を行うものである。

## 3) 事業の進捗状況

- 全体事業費 : 172.6億円
- 既投資額 : 146.9億円
- 事業進捗率 : 85%(平成20年度末)

単位: 億円

施設名	事業期間	事業費	既投資額	進捗率
岸壁(-12m)	H5~H14	33	33	100%
防波堤(西)	S60~H17	26	26	100%
防波堤(A)	H13~H20	20	20	100%
泊地(-12m)	H6~H24	73	47	65%
護岸(防波)	H6~H13	10	10	100%
防波堤(B)	H14~H16	4	4	100%
防波堤(C)	H14~H17	2	2	100%
臨港道路	H5~H14	1	1	100%
埠頭用地	H9~H17	4	4	100%

# 4. 社会経済情勢の変化

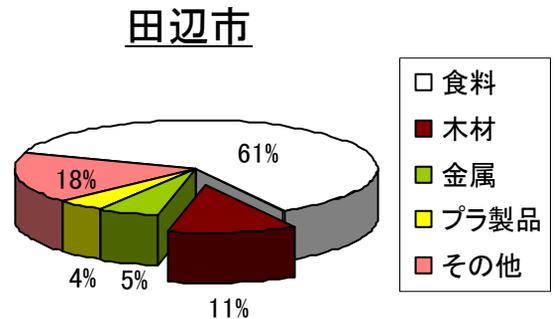
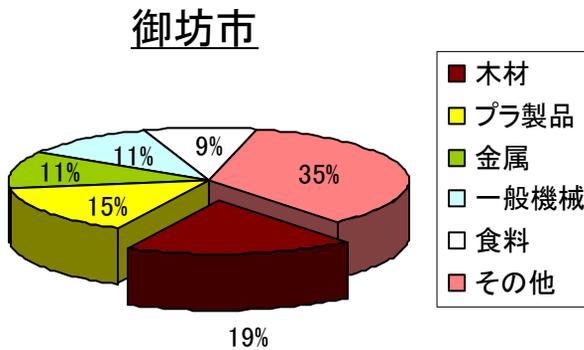
## 1) 日高港背後圏における製造業の動向

### 取扱貨物の背後圏

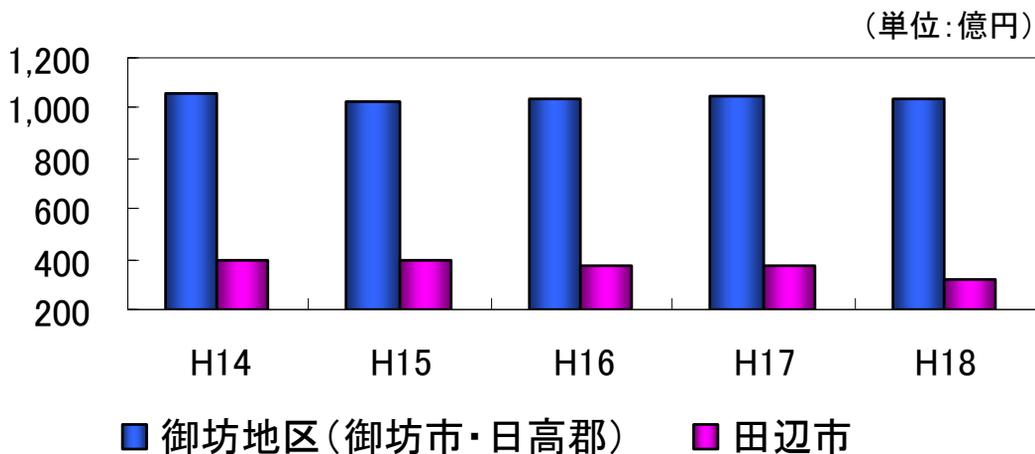
木材業は、日高港背後圏において、主要な産業であり、特に直背後の御坊市においては、製造業の約20%を占めている。また、背後地域の製造品出荷額については、近年ほぼ横ばいで推移している。



### ■ 製造品出荷割合 (H18)



### ■ 製造品出荷額の推移



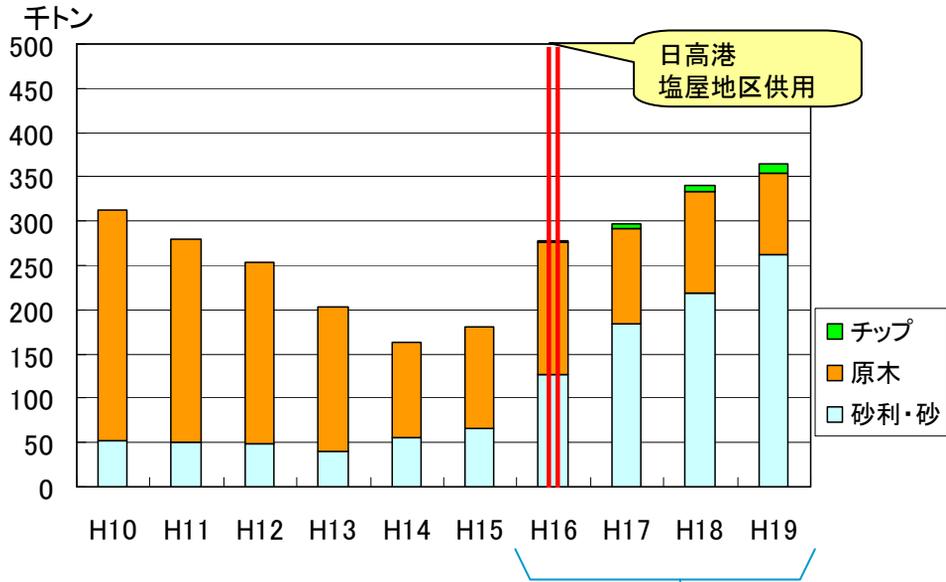
出典: 工業統計調査 (和歌山県)

※H14~H16の田辺市の値には、合併前の龍神村・中辺路町・本宮町・大塔村の値も含む

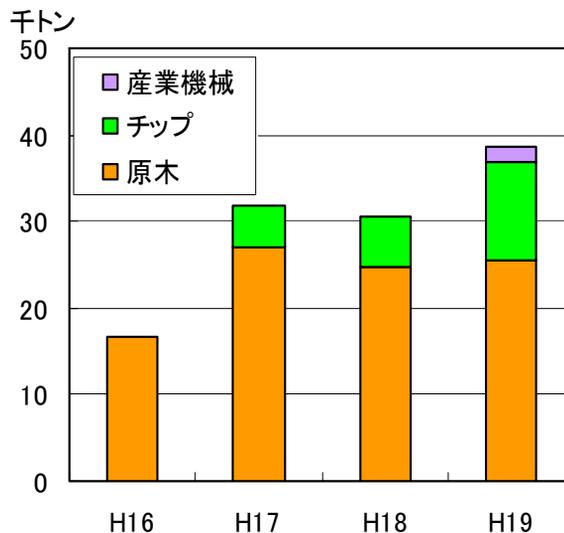
## 2) 日高港の取扱貨物量の動向(公共)

日高港の取扱貨物量については、塩屋地区が供用した後、年々増加傾向にあり、多目的国際ターミナル(岸壁(-12m))での取扱貨物量も徐々に増加している。

### 日高港公共貨物の推移



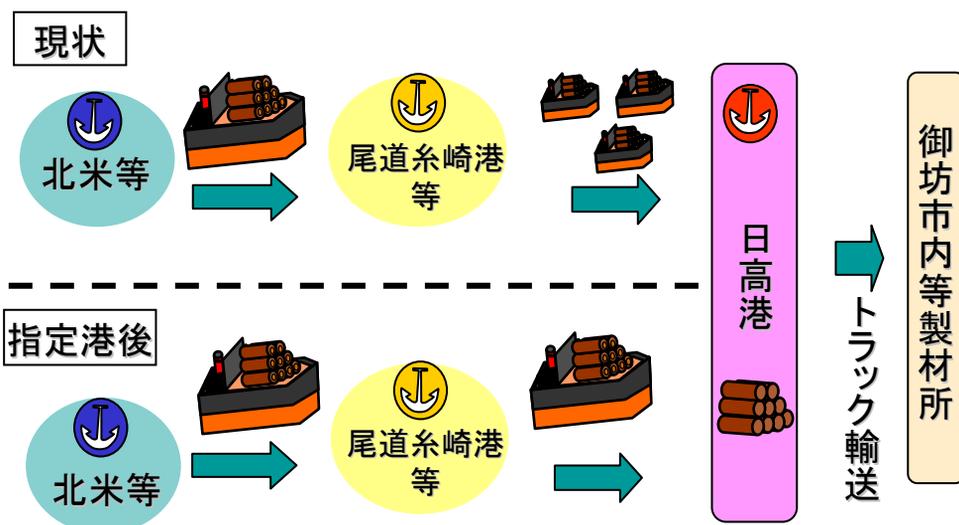
### 平成16年度に供用した岸壁(-12m)貨物取扱量の推移



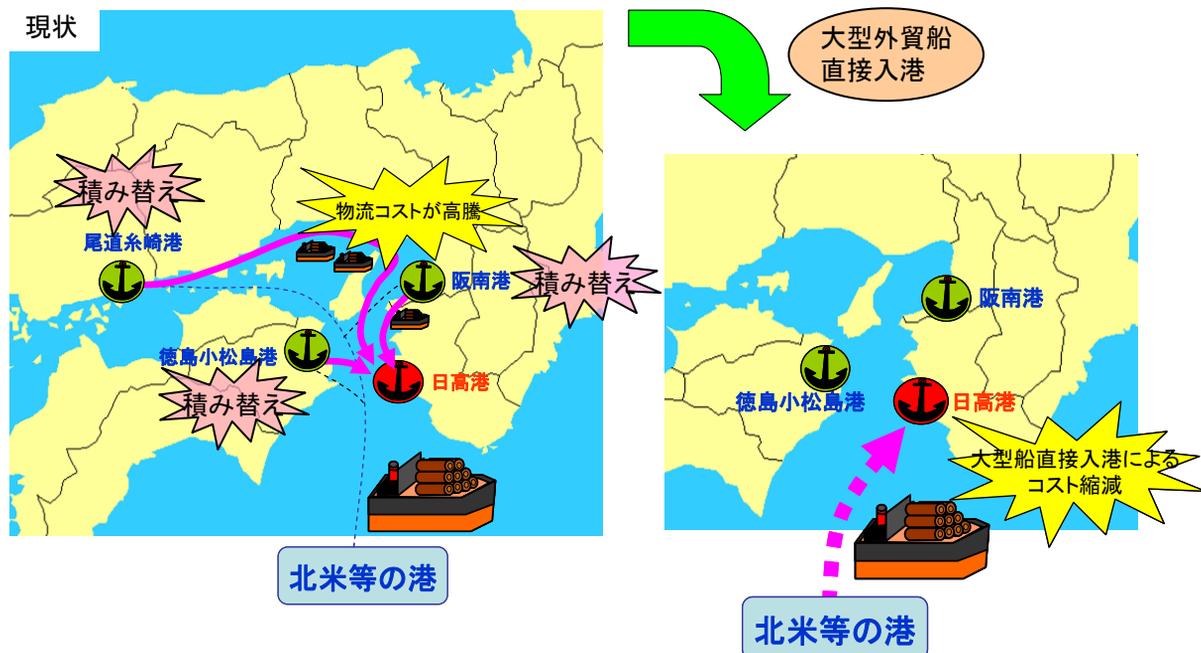
### 3) 日高港における最近の動向 植物防疫港に指定

日高港へ海外から木材等を輸入する際は、他港で植物検疫を受けた後で機帆船(199級)に積み替えて、日高港に二次輸送をしている。この平成20年11月11日に、農林水産省より日高港が「植物防疫港」に指定され、今後は直接日高港に入港し荷揚げが可能となる。指定を受けたことは、関税法上の「開港」に向けた大きな前進であり、日高港の利用促進、輸送コストの削減等利便性向上に繋がる。

#### ●「植物防疫港指定後」の貨物の輸送形態イメージ



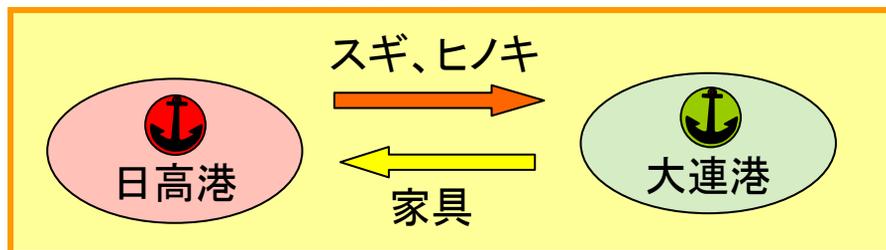
#### ●「開港後」の貨物の輸送形態イメージ



#### 4) 中国大連港との社会実験の取組

平成18年度から、御坊市において、日高港振興を目的に、御坊商工会議所が事業主体となり、大連港への木材輸出等の社会実験を進めている。社会実験では、輸送ルート、コスト、現地取引業者の発掘、木材ニーズを把握し、実際の流通に繋げるための調査を実施している。

##### 社会実験の取組イメージ



#### 5) 背後地域で建設が進められている風力発電等の動向

日高港背後地域で計画・事業化されている風力発電等の資材は、海外からの輸入品目であり、複数の企業により、約100基の計画があり、今後10年程度は継続して取り扱われる見込みである。



風車設置状況:HPより

## 6)クルーズ船等の寄港によるにぎわいの創出

平成16年度の多目的国際ターミナル(岸壁(-12m))の供用により、大型旅客船の寄港が可能となり、港周辺において、新たなにぎわいが創出されている。



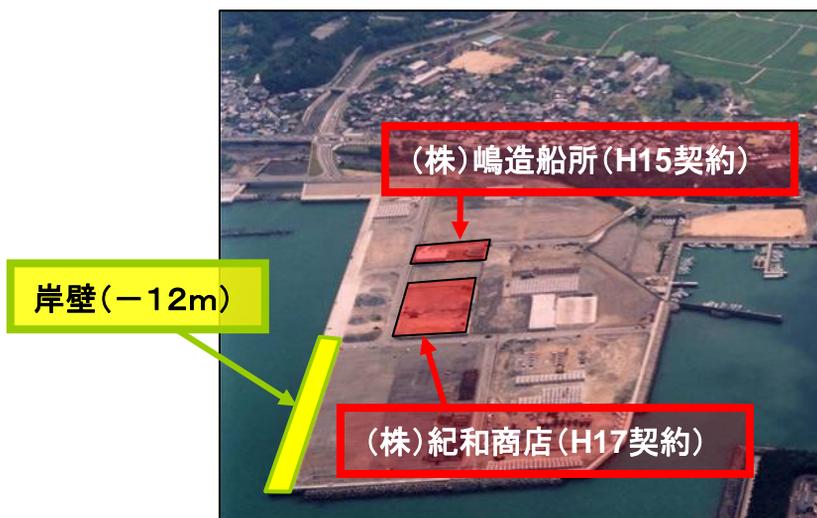
平成21年1月3日 日高港に入港した「ふじ丸」

### 【日高港への主な寄港実績】

平成16年11月 につぽん丸  
平成18年 9月 帆船 あこがれ  
平成19年 1月 ふじ丸  
平成21年 1月 ふじ丸

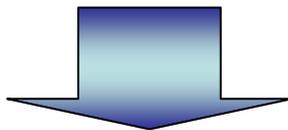
## 7)新たな進出企業の動き

平成16年度の日高港塩屋地区の供用に併せて、港湾関連業者等、新たな企業進出の動きが見えている。



## 8) 社会経済情勢のまとめ

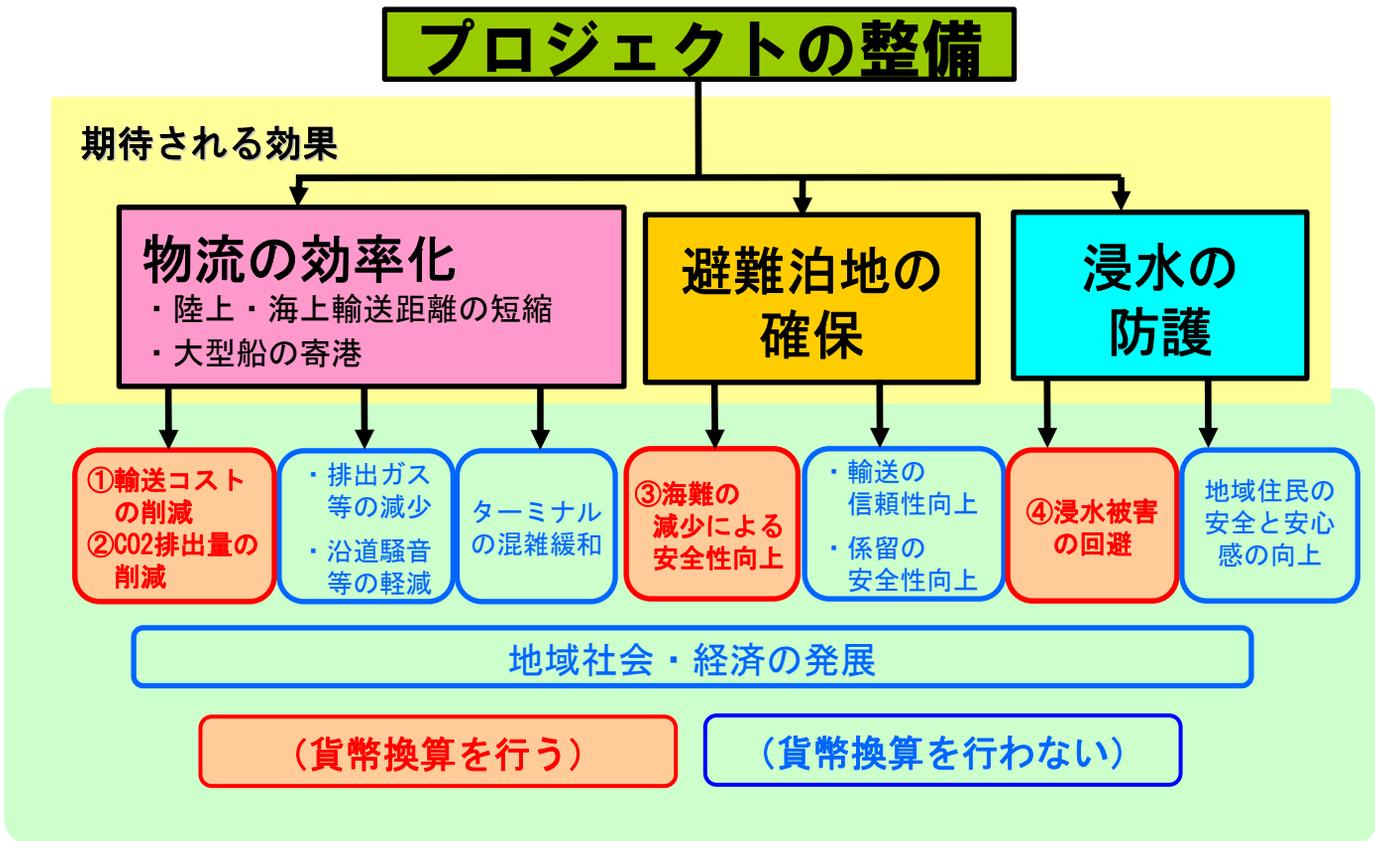
- 日高港の取扱貨物量は、平成16年度の塩屋地区供用に  
伴い、徐々に増加傾向にある。
- 平成20年11月に日高港は、「植物防疫港」に指定され、  
利用促進・輸送コストの削減等利便性向上に繋がる新た  
な動きが出ている。
- 近年、中国大連港との社会実験を通し、木材輸出の実施  
に向け検討を進めている。
- 日高港背後で多数の風力発電等が計画・事業化されて  
いる。
- クルーズ船等の寄港や、日高港への新たな企業進出等、  
日高港周辺へのにぎわいが創出されている。



日高港は、新たな物流拠点として、  
重要な位置付けとなっている。

# 5. 費用便益費の算定

## 1) プロジェクトと便益項目の抽出



## 2) 事業効果による便益計測

【対象貨物量の設定(プロジェクト完了時)】

取扱品目	輸出t	輸入t	移出t	移入t	計
原木	11,976	155,189	30,231	0	197,396
製材	0	0	38,461	0	38,461
産業機械	0	1,856	0	0	1,856
木材・チップ	0	0	11,214	0	11,214
砂・砂利	0	0	0	30,000	30,000
計	11,976	157,045	79,906	30,000	278,927

※実績及び利用企業からのヒアリングにより設定

## 【大型船入港による原木輸送の効率化】

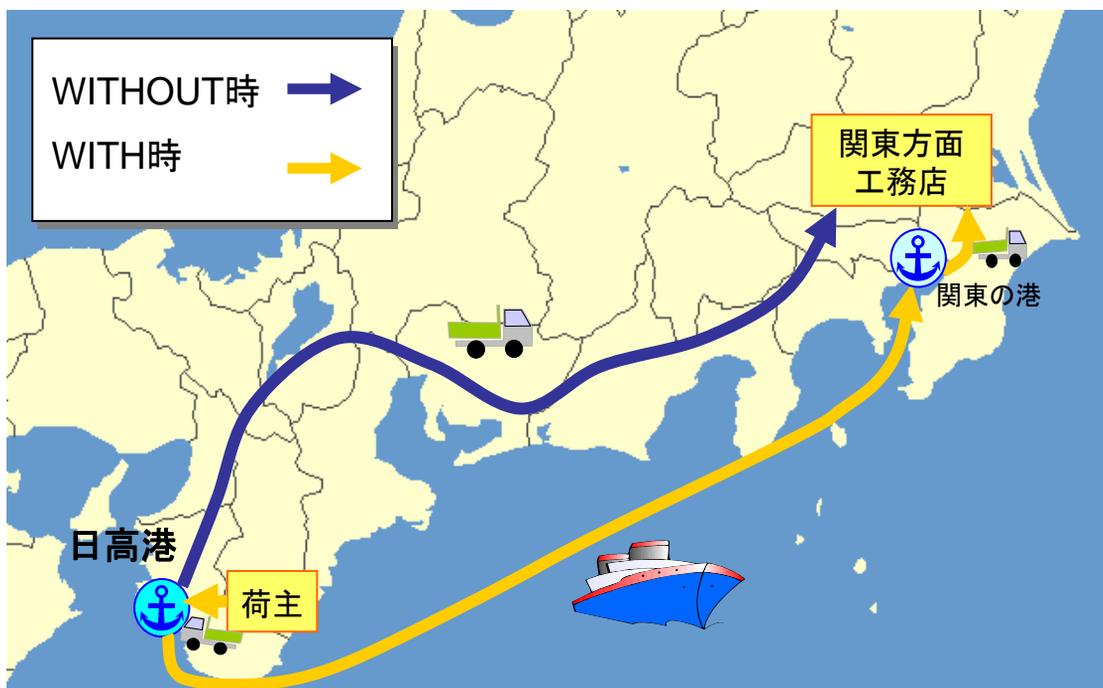
輸送コスト削減額 3.33億円／年

※プロジェクト完了後(H25～)の設定



## 【複合一貫輸送への効率化】

輸送コスト削減額 2.14億円／年



## 【紀州材輸出の輸送効率化効果】

輸送コスト削減額 0.63億円／年



## 【産業機械の輸送効率化効果】

輸送コスト削減額 0.05億円／年



## 【木材チップの輸送効率化効果】

輸送コスト削減額 0.24億円／年



## 【砂利・砂の輸送効率化効果】

輸送コスト削減額 1.13億円／年



## 【海難の減少による安全便益】

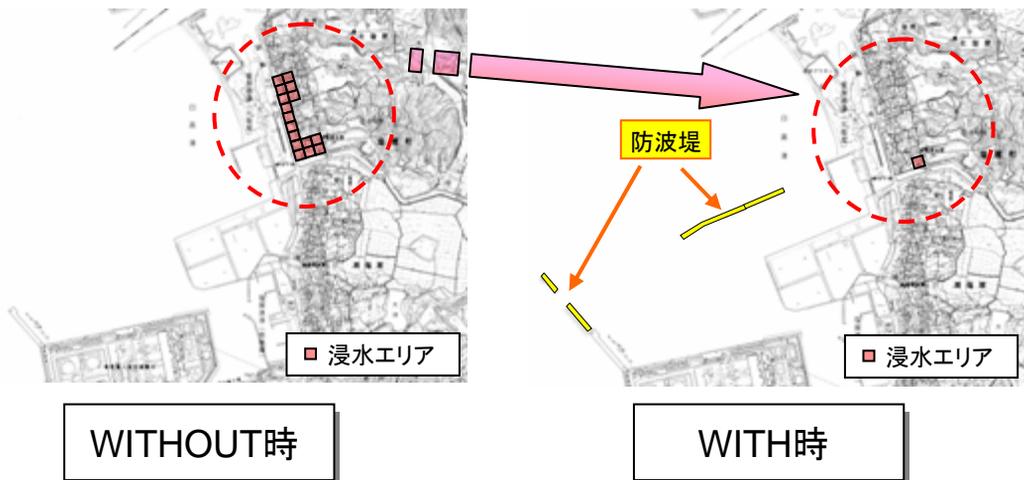
海難の減少に伴う損失回避額 4.71億円／年



WITH時 ○ 1隻分の避泊水域を確保

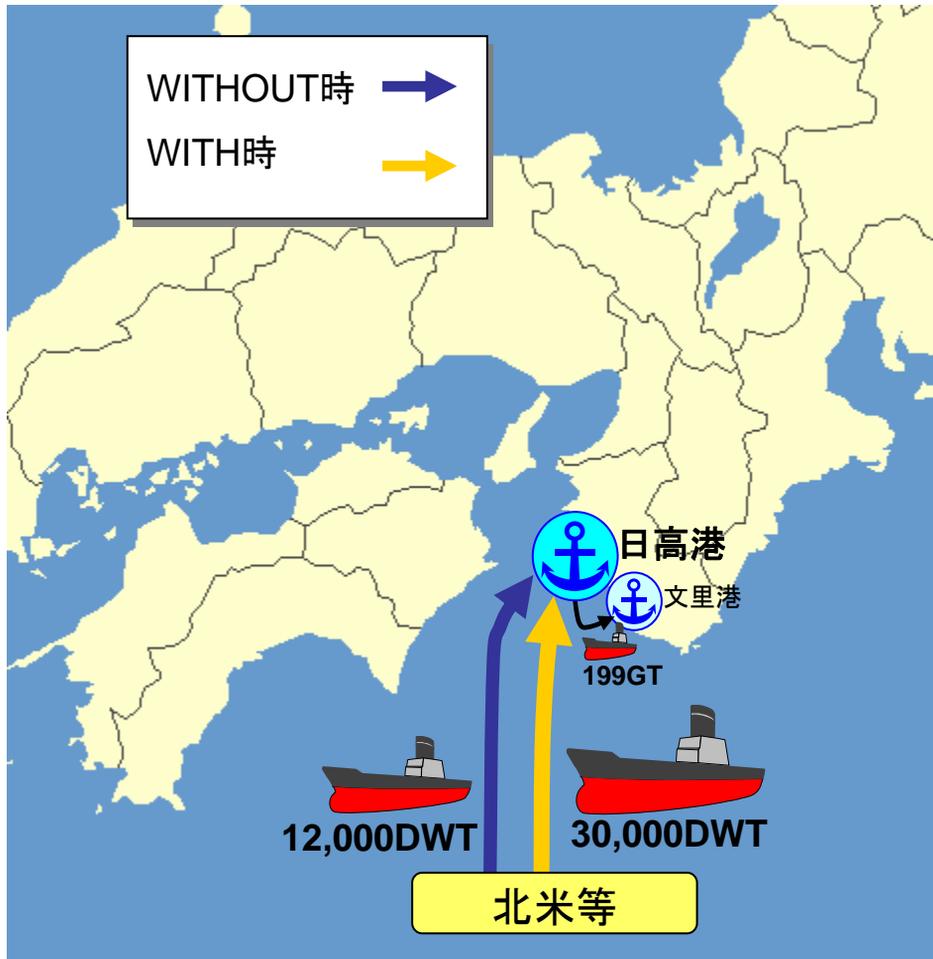
## 【浸水被害の回避便益】

浸水被害の回避額 2.03億円／年



【大型船入港による原木輸送の効率化】

輸送コスト削減額 2.21億円／年



### 3) 費用対効果分析結果

#### 【事業全体の投資効率性】

##### ● 費用の算定

プロジェクトの総事業費	172.6億円(税込)
既投資額(H20d末)	146.9億円
進捗率	85.1%

##### ● 便益の算定(割引前)

輸送コスト削減便益	319.8億円
安全・環境便益	304.9億円
残存価値	27.5億円

##### ● 費用対効果分析結果

	現在価値換算後
便 益(B)	285.2億円
費 用(C)	216.6億円
費用対便益(B/C)	1.3

(参考) 前回評価時 費用対便益 = 1.7

#### 【残事業の投資効率性】

##### ● 費用の算定

残事業の総事業費	25.7億円(税込)
----------	------------

##### ● 便益の算定(割引前)

輸送コスト削減便益	90.5億円
残存価値	6.4億円

##### ● 費用対効果分析結果

	現在価値換算後
便 益(B)	38.8億円
費 用(C)	21.7億円
費用対便益(B/C)	1.8

## 6. 今後の事業進捗の見込み

日高港塩屋地区多目的国際ターミナルは、平成16年の供用開始から、順調に取扱貨物量が増加してきており、平成21年度には大型船舶の入港が予定されている。ただ、現状では大型船において吃水調整等が必要なため、物流の更なる効率化を目指し、平成24年度完成に向けて泊地の浚渫を継続する。

## 7. コスト削減や代替案立案等の可能性

### 1) コスト縮減への対応

これまでも、第一線防波堤の構造形式において、経済性も十分に考慮した形式を選定するなど、コスト縮減に努めており、今後とも、効率的な浚渫手順や工法の検討等により事業費の削減に努めて参りたい。

### 2) 代替案の検討

大型船による物流の効率化を行うために、現行計画の水深-12mへの増深による多目的国際ターミナルの整備が適切である。

## 8. 対応方針

### 1) 事業の必要性

▲日高港の背後圏には、製材業が重要な地域産業であり、取扱量は近年ほぼ一定で推移している。

▲原木本船が入港できることにより、輸送コストの削減が行え、地域産業にとっての効果は大きい。

▲船舶の大型化に対応した施設整備が望まれている。

### 2) 事業進捗の見込み

▲大型船舶の効率的な入港を行えるよう、平成24年度の完成供用に向けて泊地の浚渫を継続する。



### ◆対応方針(原案)

#### 事業継続

日高港塩屋地区多目的国際ターミナルの整備により、船舶の大型化等に対応した施設が充実し、物流の効率化や、クルーズ船の寄港、企業立地等を含めた地域振興、背後圏の経済の活性化が見込まれる。

日高港は平成20年度に植物防疫港となり、開港へ向け大きな前進を遂げたところである。引き続き、事業を推進し、平成24年度完成を目指す。